日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話｛（鉄電） 千葉 2935・2936番
（公） 043（222）7207番

93.7.19 No.3830

日の丸労働運動のJR総連が「改憲阻止」を語り、たぶらかしを始める

開いた口がふさがらない！！

箱根以西の分裂に組織的危機を深めるＪＲ総連は、「改憲阻止国民会議（仮称）」なるものをでっち上げようとしている。社会党議員や労組、民主団体を回り、賛同人を募り、七月三十一日には「鉄道労働者が訴える憲法改悪阻止中央集会」を行うという。また、「原水禁」や「護憲・反安保国民会議」への加盟を要請し、潜り込みを図ろうとしているのである。

それらと平行して、「平和を希求する」と称して六月より一二月まで、組合員一〇〇〇を沖縄へと派遣し、一二月には大集会を行なうというのである。

ＪＲ総連の言う「改憲阻止」「平和希求」運動とは全くペテンだ！

これらＪＲ総連の言う「改憲阻止」「平和希求」の運動は全くのペテンであり、でたらめな「運動」に他ならない。

そもそも分割・民営化攻撃のなかで自民党や当局に取り入るためにＪＲ総連＝旧動労松崎はどんなことを主張したのか！

①松崎は、勝共連合＝統一教会の機関紙「世界日報（八七年二月二三日付け）」のインタビューに答え、「自衛隊を認める。自衛隊を認めるんだったら核も認める。（核兵器について）何でアメリカだけは持っていて日本は持っちゃいけないなんて言えるか。」「原子力問題も、…必要なものは必要」と主張。

②同年七月一四日付の世界日報では、「ヨーロッパとかアメリカに行くと、組合の委員長室に必ず国旗があるが、なぜ日本にはないんだ。おかしいじゃないか。」と主張、昭和天皇ヒロヒトの死亡に際し、いち早くＪＲ総連の事務所に日の丸の弔旗を掲げる。

総評解体のお先棒を担ぎ、「首切り要求」を行なったのは誰なのか！

③臨調―行革、分割・民営化攻撃は、政府・資本が全力をあげた国鉄労働運動解体攻撃であり、究極の目的は、総評解体にあった。当時、その攻撃にいち早く屈服し、総評に難癖をつけ、後ろ足で砂をかけるように総評を脱退していったのは誰なのか。

④とりわけ、許せないのは、分割・民営化の直前の差別・選別の際に国労や動労千葉の排除を国鉄当局に申し入れ、九〇年の一〇四七名の清算事業団労働者の解雇に際し、清算事業団労働者をＪＲに受け入れるようなことがあったら「ストライキも辞さない」と主張したのは誰あろうＪＲ総連なのである。

自衛隊も、核兵器も、原子力も認め、自民党に取り入り「日の丸労働運動」を推進したＪＲ総連が、舌の根も乾かないうちに、「改憲阻止」「平和希求」なのか。まさに開いた口がふさがらない。まして、労働者の首切りという基本的人権に関わる攻撃に対し、こともあろうに首切りを要求した連中に「平和を希求する」運動を語る資格もなければ、その運動が全くペテンであることは明らかである。

東労組分裂に震える ＪＲ総連革マル

それでは、何故、原水禁や護憲に取り入り、「改憲阻止」や「平和希求」運動を行なうというのか。

この間ＪＲ総連は、次々に起こる組織分裂に対し、東海においては、葛西副社長のスキャンダル問題に関し異様とも思える行動を行い、また、東において率先妥結した「動乗勤改悪」に対し、西や九州において「動乗勤改悪反対スト」を行ないながら、一方では、「東における経営の好成績や労働条件の向上は、ＪＲ東労組を基盤とした労使関係があるから」とＪＲ東当局に最大の賛美を送るという綱渡りに終始しているのである。

つまり、東当局が風向きをが変えたら、東においても会社幹部への攻撃や「ストを打つぞ」と「脅し」つつ、組織分裂に戦々恐々となり、でたらめな「反戦闘争」で組合員をたぶらかしながら、組織を「温存」を図り、自民党や当局から「無情」にも切り捨てられたＪＲ総連が、今度は「改憲反対」を語り議員や労組等をたぶらかし「原水禁」や「護憲」に取り入りろうというのである。なんと節操のない連中なのか。

われわれは、デマとペテンに満ちたＪＲ総連革マル型運動を断じて許さず、ＪＲ総連解体に向け全力で闘おう！

家族会連続講座に集まろう

第一三回家族会連続講座

とき　七月二五日（日）一三時～

ところ　千葉市社会センター（千葉神社隣）

テーマ　「育児と教育」

「受験戦争」「管理教育」「いじめ」や「不登校」などの教育問題を、第一線の教育現場で活躍されている講師の方と、日頃の悩み問題などを話し合う講座です。より多くの御参加をお願いします